



提 言 書

みんなで考える
家庭ごみ減量会議



目次

03	はじめに みんなで考える家庭ごみ減量会議の概要
04	私たちが知らなかった“ごみ”のこと
06	大切にしたい3つのこと
07	みんなで考えた4つの提言
08	■ 提言 1 目標
10	■ 提言 2 意識
12	■ 提言 3 基本
16	■ 提言 4 挑戦
18	私たちから伝えたいメッセージ

参加者

・みんなで考える家庭ごみ減量会議 参加者

琴浦町民 19人
(住民基本台帳から無作為に選んだ
2,000人から応募のあった琴浦町民)

・ナビゲーター

榎田豊久 氏
(アマタホールディングス株式会社
会長付 経営戦略補佐)

・事務局

琴浦町役場企画政策課
SDGs推進室

・協力・コーディネート 一般社団法人構想日本



第1回

令和3年9月18日(土)

- ・自分ごと化会議の趣旨・目的の説明(構想日本)
- ・テーマに関する現状と課題の説明(事務局)
- ・参加者の自己紹介など



第2回

令和3年10月16日(土)

- ・現地視察(ごみ処理施設、最終処分場)
- ・ナビゲーターによる話題提供
- ・テーマについて議論、「改善提案シート」の記入など

はじめに

私たちは、令和3年9月から12月まで、4回にわたって、「家庭ごみの減量」について話し合ってきました。

「みんなで考える家庭ごみ減量会議に参加してみませんか？」

無作為で選ばれた私たちに、突然、町から届いた封書に入っていた言葉です。

参加したのは、年齢、地域、出身、職業、知識、考え方などが異なる19名。

共通していたのは、ごみのことを考える必要がある、という意識だったと思います。

第1回会議での緊張感いっぱいの自己紹介に始まり、第2回会議のテーブルごとの話し合いでアイデアを出し合い、第3回と第4回では、ごみにどう向かい合ったらよいのか、真剣な議論を重ねました。

みんなの表情も緊張から生き生きとした笑顔に変わり、そして、わくわく感が広がってきました。

それらの議論の結果を「4つの提言」としてまとめました。

この提言は、住民（琴浦町民）から行政（町役場）への提言という意味合いだけではありません。

ごみに向き合うためには、行政だけでなく住民も共に「自分ごと」として取り組むことが大切だと改めて思いました。

この提言をすべての町民の皆さま、琴浦町に関係する皆さまに届けたいと願っています。

また、この提言はゴールではありません。

ごみのことをきっかけに、琴浦町の未来をみんなで考える、「スタートライン」です。

私たちは話し合いを通して、実に多くのことを知り、多くの大切なことに気づきました。

これからも、皆さまと共に、もっと知り、もっと考え、もっと行動することで、琴浦町の素晴らしい未来に、そして、笑顔あふれる未来に向かって歩んでいきたいと願っています。

令和4年3月12日

「みんなで考える家庭ごみ減量会議 ～琴浦自分ごと化会議～」参加者一同

第3回

令和3年11月13日(土)

- テーマについて全体で議論
- 「改善提案シート」の記入など



第4回

令和3年12月18日(土)

- 「提言書(案)」について全体で議論など



第5回

令和4年3月12日(土)

- 提言書の報告、参加者の会議を振り返っての意見交換
- 提言を受けて、町としての今後の取り組みの説明など

■ 私たちが知らなかった“ごみ”のこと

ごみ処理の費用は？

年間約 2 億円かかっています。

そのうち、約 1 億円がごみの収集や運搬に係る費用です。残りの約 1 億円は、ごみを焼却するための費用とその焼却施設のための費用、ごみを埋め立てる最終処分場の施設のための費用です。

どんなごみが出ているの？

全体のごみの 4 割が家庭から出る生ごみです。

そして、約 80%の重量が水分だといわれています。

琴浦町の 1 人 1 日あたりのごみの量を近隣市町と比較してみました。

リサイクルの分を考慮した比較では、近隣市町が概ね減少傾向であることに対して、琴浦町は横ばいと言えます。

水分量の多い生ごみは、結果としてごみの量を増やします。

水分の多いごみを燃やすには、たくさんのエネルギーが必要となり、多くのコストがかかります。

また、温室効果ガスもたくさん排出してしまい環境へ大きな負担をかけています。

ごみの処理はどうなっている？

琴浦町で集められたごみは、ごみ処理施設である「ほうきりサイクルセンター」に運ばれます。センターでは、家庭や事業所から出るごみを焼却処理したり、破碎処理したりします。

今の焼却炉の耐用年数は、令和 11 年度まで、残り 8 年です。新たに建設するためには数十億円かかる見込みです。

ほうきりサイクルセンターで焼却されると焼却灰になります。焼却灰は、最終処分場の「グリーンランドほうき」に持っていき、安全に埋立てられます。

このままのペースでごみの排出が続くと、残り 18 年で埋立場所がなくなってしまいます。そうすると、新たな最終処分場をどこかに造らなければなりません。

家庭でできるごみ減量化は？

生ごみは、コンポストや*生ごみ処理機を使うことで、生ごみを堆肥化して、畑などで使えるようにしたり、乾燥させて減量化することができます。

生ごみをごみ箱やプラ袋に入れる際に、「水切り」「生ごみ乾燥機の利用」など水分量を減らす工夫をするだけでも、大きな効果が見込まれます。

*生ごみ処理機

乾燥または微生物による分解によって、生ごみを減量化及び堆肥化させる機器。

*ゼロ・ウェイスト（次頁） ごみを焼却、埋立て処理をせず、資源の浪費や、有害物質や非再生可能資源の利用をやめて環境負荷を減らしながら、堆肥化などの物質回収や再生可能エネルギー利用、リサイクルによって、ごみをゼロにする考え方。

ごみの対策、琴浦町の特色は？

琴浦町では軟質プラスチックの分別に力を入れています。

軟質プラスチックの回収ボックスが町内に5箇所あります。

- ・役場本庁舎
- ・A コーポトピア店
- ・トライアル琴浦店
- ・ショッピングセンターアパート
- ・A コープ赤碕店

*令和4年1月現在

琴浦町は、全国や県、近隣他市町に比べてリサイクル率が高いです。

令和元年度のリサイクル率
国 19.6%
鳥取県 29.2%
琴浦町 40.2%

琴浦町はリサイクル量が多く、全国、県、近隣市町村に比べ分別が進んでいるといえますが、令和3年度に実施したごみの組成調査の結果からは、現在家庭ごみから排出されているごみのうち、26.7%が更に分別をすることができます。

環境への負担が軽減されます。

ごみを燃やすと二酸化炭素などの温室効果ガスが排出され、地球温暖化の原因になります。

ごみが減るとどうなる？

施設が長く使えるなど、ごみ処理にかかる費用が減らせます。

家庭ごみを減量化すると、最終処分場へ埋立てをする焼却灰などを減らすことができます。水分量が多い生ごみを減らすことで、焼却用の燃料が減ったり、焼却炉にかかる負担が減ったりするので、焼却炉が長く使えるようになります。

最終処分場や新しいごみ焼却施設の建設には、多くの費用を税金で支払わなければなりません。

先進自治体の取り組みは？

徳島県上勝町は、平成15年に日本初のゼロ・ウェイスト宣言を行いました。さらに、新たなチャレンジに向けて、令和2年に新しい*「ゼロ・ウェイスト宣言」を発表しました。

上勝町は、ごみ収集は一切行わず、ビンや缶などの資源はごみステーションに持ち寄り45タイプに分別し、生ごみなどはコンポストを利用して、各家庭で堆肥化しています。現在の上勝町のリサイクル率は80%を超えています。

第2回会議でナビゲーターから、宮城県南三陸町の事例として紹介された取り組みです。

一般ごみを100%資源化しようとする試みで、拠点施設である*「MEGURU STATION」を設け、住民自らがごみを分別して持ち込みます。中心的な目的は、人が集うことで、住民同士のつながりや絆が深まり、地域コミュニティが強くなること。買い物支援、健康づくり、介護予防などの課題解決にもつながります。

循環型社会創造に取り組むアマタ、大手ソフトウェア会社、地元企業、町役場など地域が連携して試行的に実施されました。

ごみ減量化につながるだけでなく、それをきっかけに、地域で困っていることの解決にもつながる可能性のある取り組みです。



*MEGURU STATION ごみ出しという日常の延長線上で顔の見える関係性を築き、買い物支援、健康づくり、介護予防などの課題解決に取り組むことを目指した取り組み。第2回会議でナビゲーターから紹介された。

大切にしたい3つのこと

今回の会議を通して、私たちは多くのことを知りました。

また、話し合いの中で、大切にしたいこと、大切にしなければならないことにも気づきました。

次の3つは、私たちが“ごみ”のことに取り組むときに“大切にしたい基本的なこと”です。

1 行動につなげる。そして、継続する。

いろいろなアイデアも具体的な行動につながらなければ意味がありません。

具体的な行動につなげることを大切にします。

そのために、理想的な目標への第一歩として、まずは小さなことから始め、

続けて取り組みながら、どんどん改善し、大きく育てること、

どれだけ達成できたか、みんなで実感できるようにすることを大切にします。

2 ごみのことを“見える化”する。

私たちがこの会議で行った中部1市4町で使用しているごみ処理施設と最終処分場の見学や、ごみについての議論を通じて、知らなかった多くのことを知ることができました。

知ることによって気づきが生まれる、気づくとやってみたくなる、やってみるとやりがいが生れます。

始まりは、知ることです。

知るためには、ごみのことを、いろんな視点で見えるようにする必要があります。

ごみ処理の費用は？ 家庭ごみの量は？ どんなごみが出されているのか？ ごみはどこでどのように処理されているのか？

私たちもごみのことを、見えるようにする“見える化”と一緒に取り組みます。

特に、ごみの減量化の取り組みの結果がどうなったのか？ その成果を町民が実感できるかたちで“見える化”することも大切にします。

3 ごみを通して、みんなで助け合い、誰一人取り残さない仕組みにする。

ごみのことに取り組みたいけれど、足腰が弱ってごみの収集場所に行けない、リサイクルの分別が複雑すぎて対応できないなど、なんらかの事情で、困難な状況にある町民もいます。

そのような方々を取り残すことなく、みんなで支え合える仕組みを考えることを大切にします。

それが、ごみの課題解決だけではなく、より住みやすい琴浦町につながります。

みんなで考えた4つの提言

提言

- 1 目標 01 目標を持ち、達成度が見える化する。

提言

- 2 意識 02 ごみのことを知り、見える化する。
03 ごみのことを町の人に伝え、広める。

提言

- 3 基本 04 行動へのきっかけを創る。
05 ごみの発生を防ぐ。(リフューズ&リペア)
06 ごみの量を減らす。(リデュース)
07 再利用する。(リユース)
08 資源としてリサイクルする。(リサイクル)

提言

- 4 挑戦 09 循環型社会の実現に挑む。
10 ごみ問題の解決を他の課題の解決につなげることに挑む。
11 継続・行動・進化で琴浦から世界へ!

目標を持ち、
成果を確認しながら進みましょう。

- 「琴浦町ごみゼロ（ゼロ・ウェイスト）」を目指す。
- 段階的な目標、取り組みごとの目標を設定する。
- 具体的な目標を設定し、どれくらい達成できたかを見える化して、みんなで実感する。

具体的な取り組み

01 目標を持ち、達成度を見える化する。

琴浦町としてのごみ減量化の意義を明確にし、目指すべき理想の姿としての「琴浦町ごみゼロ（ゼロ・ウェイスト）への挑戦」を提言します。

「琴浦町ごみゼロ（ゼロ・ウェイスト）」を実現するためには、段階的な目標や取り組みごとの目標を具体的に設定することが必要です。

その第一歩として、生ごみの減量に取り組むこと、

その段階的な目標として、生ごみの量を町全体で概ね 50%減らすことを目指し、地域や個人としてもそれぞれの取り組みに応じた現実的な目標を持つことを提言します。

また、具体的な目標に対して、どれだけ近づいているのかを見える化し、町民全体で達成度を実感できるようにすることを提言します。

まずはここから！

私たち町民

- 個人や家庭で、一カ月のごみ袋数などの目標を持つ。

地域

- 個人の取り組みだけでは達成できないレベルの目標に対しては、公民館単位など地域での取り組みを検討する。

行政

- 目標の達成度を見える化する。
- 個人や地域での目標を設定しやすくするための具体例を周知する。

引き続き取り組むアイデア！

地域

- 地域ごとの特性に合わせた目標を持つ。

行政

- 目標達成に対する町民への具体的な還元を検討する。



みんなの想い

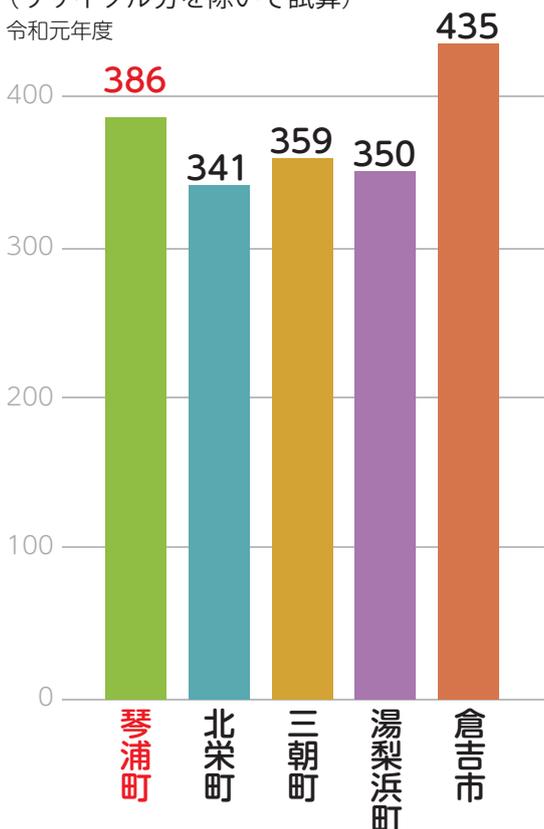
(目標の設定)

- 目標があるとみんなが元気になる。
- 目標が見えると活動しやすい。
- 理想的な目標と共に、現実的・段階的な目標を持つ。
- 目標はみんなで作って、みんなで設定する。
- 取り組み項目ごとの目標を持つ。
- 金額ベースで見える化すると実感できる。
- 町民、行政と一緒に活動するための目標を持つ。
- 目標を達成したときの将来像を共有する。
- ターゲットを絞る。まずは生ごみの減量から。
- 目標実現のための具体的工程を持つ。

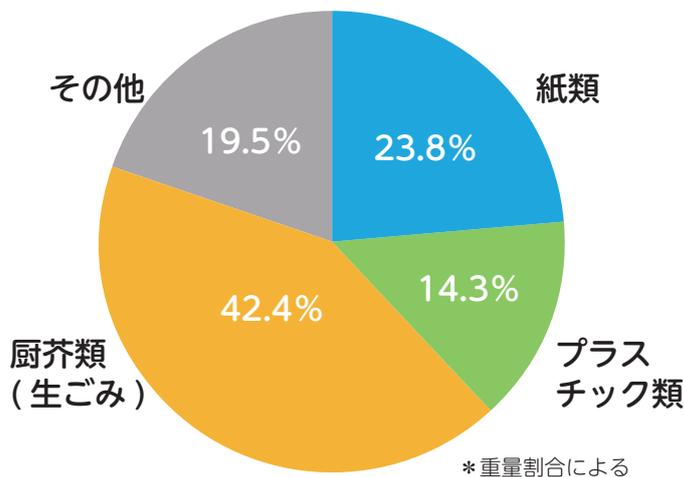
(目標の周知及び検証)

- 町全体で取り組んでいることを周知するためにも、宣言的なものが必要。
- みんなで行き、みんなで行く。
- みんなと一緒に階段を登る。

1人1日あたりのごみ総排出量(g)
(リサイクル分を除いて試算)
令和元年度



琴浦町のごみ(可燃ごみ)の種類
令和3年度組成調査結果



ごみのことを知り、見える化して
町の人に広めよう。
ごみに対する意識を高めよう。

- アンテナを高くして、ごみのことについての知識を深める。
- ごみのことをわかりやすく、見える化する。
- ごみのことを町の人に伝え、広める。

具体的な取り組み

02 ごみのことを知り、見える化する。

まずは、私たち町民がごみのことを知ることが重要です。

そのために私たち町民がアンテナを高くし、ごみのことを知るという意識を持つことを提言します。

また、琴浦町のごみのこと、種類や組成、処理のプロセス、処理のコストなど意識を高めるために必要な気づきにつながる、ごみのあらゆる情報を見える化することを提言します。

03 ごみのことを町の人に伝え、広める。

町全体でごみのことに取り組むために、私たち町民が日ごろのつながりの中で、必要な情報を共有することを提言します。

また、防災無線や広報紙、HP などを活用して、情報を周知することを提言します。

02 ごみのことを知り、見える化する。

具体的な取り組みの実現に向けて、それぞれが行うこと。

まずはここから！

私たち町民

- アンテナを高くして情報に気づく。
- 分別やリサイクルの情報などを認識する。
- 生ごみの重さ、軟質プラスチック回収、生ごみ処理ボックスのことなど、ごみのことを知る努力をする。
- ごみを減らすための情報を意識して調べる。
- ごみにはお金がかかっているということを認識する。

地域

- ごみ捨て場へポスターを掲示して、ごみ減量の目標となる重さや町内のごみの現状を周知する。

行政

- ごみの現状を見える化する。施設の状況、自治体、近隣自治体との比較、コスト（今の経費だけではなく、埋立地の建設や延命措置等に係る経費などの将来コストを含む。）などを見える化し、町民全員に知ってもらう工夫をする。
- ごみ情報を金額ベースで見える化する。実感が伴う。
- ごみの減量や分別の進み具合、メリット・デメリットを住民に知らせる。

引き続き取り組むアイデア！

その他

- ごみを出すほど料金が高くなる仕組みの導入。
- 一般廃棄物（家庭ごみ、事業系一般廃棄物）、産業廃棄物がルールに則った搬出かどうかを確認する。

- 事業系一般廃棄物のごみの現状を見える化する。

03 ごみのことを町の人に伝え、広める。

具体的な取り組みの実現に向けて、それぞれが行うこと。

まずはここから！

私たち町民

- 友人、近所や知人にごみの現状を知らせる。
- 意識を変えるためにいろんな人に声掛けをする。
- ごみの情報を家庭内で共有する。
- インパクトのあるキャッチコピーや標語を考えてアピールする。（行政と共に。）
- ごみ出しなど、子どもの参加・実践の機会をつくる。
- ごみのことを子どもたちにも伝える。
- 子ども会などのつながりを活用して個々に働きかける。

地域

- 公民館活動の中でごみ問題のことを伝えていく。
- 地区の総会で生ごみの話など現状を知らせる。

行政

- 防災無線で、ごみのことを発信する。
- T C C（鳥取中央有線放送）にも協力してもらう。
- 今月のごみの現状など、定期的にごみの量を公表し、目標の達成度を伝える。
- 生ごみの水分を減らすことの重要性を伝える。
- 広報は世代それぞれにあった方法を工夫する。
- 広報紙、ホームページでごみの減量を呼び掛ける。
- この会議で説明されたことを全町民にも伝える。
- 知る場、気づく場を設ける。知ると気づく。気づくとやってみたくなる。やってみるとやりがいがある。
- 小中学校などを対象とした講座を開催する。

その他

- できることはなんでもやる。

引き続き取り組むアイデア！

その他

- 食品ロス削減、生ごみ減量などのキャンペーン展開。
- ごみ問題を考える月間などの設定。
- 町内の商店など様々な拠点にごみの情報コーナーをつくる。
- ポスターを作って、町内の商店などに貼る。ポスターは子どもたちが作るのも良い。

- ごみ処理に関する見学など、現地・現物が体験できる場や機会を作る。
- 情報のストーリー化で危機感醸成。
- 気づく機会としてのエコ検定。
- ごみのことを伝えるPRソング。
- キャラクターを活用して周知する。
- メディアに積極的にアピールする。

基本的な 5 つのことに実践しよう。

- 行動へのきっかけを創る。
- ごみの発生を防ぐ。
- ごみの量を減らす。
- 再利用する。
- 資源としてリサイクルする。

具体的な取り組み

04 行動へのきっかけを創る。

この提言の中心である「行動すること」への後押しとしての、成果に対する還元ポイントやごみ袋料金の見直しを提言します。

05 ごみの発生を防ぐ。(リフューズ & リペア)

日常生活で食べ物などを消費すればごみが出ます。でも、不要な消費を減らせば、ごみの発生は少なくなります。不要なものを家庭に持ち込まない、繰り返し使えるものを使う、過剰包装に対する意識を高めることに取り組むことを提言します。

06 ごみの量を減らす。(リデュース)

家庭から出る生ごみの 80%は水分だと言われています。生ごみの水切りを徹底すること、コンポストや生ごみ処理機で、生ごみを堆肥にして、畑などで利用することを提言します。

07 再利用する。(リユース)

自分が要らないと思ったものでも、誰かにとっては必要なものかもしれません。交換したり、必要な誰かに届けたりすることができる場を設けて、再利用を進めることを提言します。

08 資源としてリサイクルする。(リサイクル)

分別表や商品ラベルをよく見て、リサイクルできるものはできるだけ分別すること、既に琴浦町で実施している軟質プラスチックの回収を積極的に利用することを提言します。

04 行動へのきっかけを創る。

具体的な取り組みの実現に向けて、それぞれが行うこと。

まずはここから！

私たち町民

- 「面倒」「できない」という思い込みを捨て、もっとごみを減らせるように頑張ってみる。

行政

- 行動につなげるための後押しとしてのポイント制度やごみ袋の値段見直しなどを検討する。

みんなの想い

- 小さく始めて大きく育てる。シンプルに始める。スタートしやすさが必要。
- 小さい成功を積み重ねる。
- 全方位ではなく、ターゲットを定めてスタート。
- 対象になるごみを絞ってスタート。

引き続き取り組むアイデア！

その他

- ポイント制を導入してごみを減らした人が得をするようにする。
- 商工会などと連携して還元ポイントを導入する。地域単位で還元しても良い。
- 自分に何か還元されるとごみの分別や生ごみの減量化が進むのではないか。

- 生ごみ処理機は、使い続けるための後押しが必要。そのためにも、ごみがどれくらい減ったか、どんな成果を社会にもたらしたかを見える化する必要がある。
- ごみを出す際に、重さを量れるようにするとやりがい実感できる。
- ごみを捨てれば捨てるほどお金がかかる仕組みにする。

05 ごみの発生を防ぐ。(リフューズ&リペア)

具体的な取り組みの実現に向けて、それぞれが行うこと。

まずはここから！

私たち町民

- 「本当に必要か」を再検討し、不要なものを買わない、家に入れないことに努める。
- 長く使うことでごみ発生を防ぐために、使用可能期間の長いものを買う、すぐに使えなくなるものを買わない。
- まだ壊れていなくても、ゆくゆくは壊れるだろう部品は早めに(部品製造期限以内に)購入しておく。
- 物を直して大事に長く使うことに努める。
- 賞味期限が近いものから買い、食品ロスを減らす。
- 包装が過剰でないものを買うようにする。

- 使わない小袋やチラシ、紙ナプキンを断る。
- 琴浦らしい豊かな暮らしを考える。

地域

- 商店などと町民が話し合う場に協力する。

行政

- 町民と町内の商店などの事業者がお互いのことを知り、一緒に過剰包装などを減らすための取り組みを話し合うことができる、意識共有の場を設ける。

引き続き取り組むアイデア！

私たち町民

- 過剰包装をやめるよう働きかける。
- タッパーやボウルを持って行き、包装がされていないものを買うようにする。
- スーパーで購入した際にその場でトレーやラップが返せるようなら返す。

行政

- 過剰包装を行わないように販売店へ依頼する。
- 修理業者の情報を提供する。

その他

- 無駄を出さない意識を持ち、賞味期限が近いものから買う、売ることに取り組む。
- バラ売り野菜や総菜は袋に入れることをやめる。
- そのまま販売できるものにはプラスチックの容器などを使わない。
- 過剰包装を行わない個人商店を応援する企画を行う。
- 「バイイング・フロム・アルチザン」(職人から物を買うこと)を町民に推奨していく。

地域

- 地域でマルシェを開催し、生産者から直接買える場を設ける(包装が不要になり、ごみの削減につながる)。

まずはここから！

私たち町民

- 生ごみを出さないようにしてごみ処理コストを下げ、税金が有効に使われるように町民全員で意識する。
- コンポストや生ごみ処理機の正しい使い方を知る。
- 生ごみの水切りをしっかりとる。生ごみの水切りは、コストがかからず、効果が高い。
- 生ごみの水切りの効果を周知する。(行政と共に)
- 水切りのやり方や乾燥のやり方をみんなで共有する。

地域

- 公民館単位・公民館活動での生ごみ処理を検討する。

行政

- 生ごみ処理ボックスなどの情報を町民に周知する。
- コンポストの使い方や効果をポスターやメディアなどで周知する。
- 生ごみ処理機やコンポストの補助制度をつくる。
- 生ごみ減量の成果を金額で見える化し、補助制度の財源として検討する。
- 現在のごみ処理などのコストを削減し、目標を達成したら一定分を生ごみ処理機などの補助に回すような仕組み(コスト構造)にしていく。

その他

- 水切りの効果をアピールするキャッチコピーを考える。

引き続き取り組むアイデア！

私たち町民

- コンポストを活用する。ベランダ用生ごみ処理ボックスを自作する。
- ベランダ用ごみ処理ボックスを活用する。

地域

- 生ごみ処理でできた堆肥をどう処理するか考える必要がある。
- 自家で使いきれない堆肥は地域拠点で集めて、地域でシェアするなど、広く活用できるようにする。

- コンポストは地区単位で備えてはどうか。
- 行政区や部落ごとに生ごみ回収ボックスやコンポストを設置する。
- 地区ごとのスマートコミュニティバイオガス装置(生ごみをメタン菌で発酵させて、電気などのエネルギーや液体の肥料を生み出す装置)の設置について検討する。

その他

- 堆肥が活用できるような土地を用意する。
- 処理後のたい肥を回収する。

まずはここから！

私たち町民

- 自分が不要なものをゴミとして見るのではなく、誰かが使えるものとして考え、再利用に回るようにする。
- ゴみではなく、お金の換えられるものとして見る。

行政

- フリーマーケットや掲示板などのリユース機会を検討する。(地域と共に)

引き続き取り組むアイデア！

地域

- 地域で不用品を持ち寄れるバザーや0円ショップ、フリーマーケットの開催を行う。それに対して、地域で見切り品や新古・中古商品を提供する。
- 地域ごとにリユースの機会、場を設ける。

行政

- 地域で不用品を持ち寄れるバザーや0円ショップの開催を行う際に補助をする。

その他

- これありませんか「掲示板」をつくる。
- 要らない衣類や食器類などを譲ったり交換したりできるような場をつくる。
- フリーマーケットなどを町全体で実施する。

まずはここから！

私たち町民

- 分別をしっかりとる。ごみの分別を行う努力をする。
- 町で配った分別表を良く読んで理解する。
- ごみ問題やごみの減量化への意識付けをするため、まずは軟質プラスチックの分別から始める。
- 軟質プラスチックの回収の取り組みを知って、出すようにする。
- 商品のラベルの表示をよく確認して細かく分別する。
- リサイクルマークを意識する、関心を持つ。
- ごみではなくリサイクルに回す方法を知る。

地域

- 近所に高齢で分別に取り組みえない人がいる場合には希望を聞いてお手伝いする。

- 高齢で分別に取り組みえない人の手伝いができる人を地区内で募る。
- 協力して分別や減量に取り組む。

行政

- 生ごみ減量の成果を金額で見える化し、補助制度の財源として検討する。
- 現在のごみ処理などのコストを削減し、目標を達成したら一定分を生ごみ処理機などの補助に回すような仕組み（コスト構造）にしていく。
- 軟質プラスチックの回収は社会にどんなメリットをもたらすのか周知する。
- 軟質プラスチックの回収などリサイクルについてわかりやすく周知する。イラストなどでの説明があるとわかりやすい。

引き続き取り組むアイデア！

地域

- プラスチックなどのリサイクルステーションを地域で運営する。
- 軟質プラスチックの回収ボックスを地域に設ける。
- 高齢で分別に取り組みえない人を地域で手伝えるためのシステムをつくる。

行政

- 軟質プラスチックの回収場所を増やしたり、回収場所をわかりやすくしたりして、周知を行う。
- 軟質プラスチックの回収曜日を決めてはどうか？
- 高齢で分別に取り組みえない人を地域で手伝えるための補助金やシステムをつくる。
- 分別や減量の取り組みのイニシャルコスト（初期投資）や広報、助け合いなどを支援する制度をつくる。

その他

- 軟質プラスチックの回収ボックスを充実する。
- ごみ捨て場をきれいに使い、分別を徹底する。
- 回収までの間に資源ごみが劣化しないように、回収ステーションなどに屋根をつける。
- 軟質プラスチック回収などのごみ対策経費もごみ袋の料金で賄えるコスト構造にする。
- ごみをお金に変える方法がないか。（まだ使える食器、家電、調理器具、衣類など）使えるものは分別して、分別したらポイントがたまるなど。
- 販売用のパッケージの紙シールは剥がすのが大変。メーカーに協力してもらえれば、リサイクルが進むのでは？
- 小型充電式電池の回収ボックスの場所を増やす。設置場所をPRする。



ほうきリサイクルセンター



クリーンランドほうき

循環型社会の実現や
地域の課題解決に挑戦しましょう。

- 未来に向けて、循環型社会の実現に挑む。
- ごみ問題への取り組みで地域のつながりを深め、他の課題の解決につなげることに挑む。

具体的な取り組み

09 循環型社会の実現に挑む。

「ごみ」のことは、琴浦町だけではなく、社会全体の課題であり、世界各国が取り組むSDGs（持続可能な開発目標）にもつながります。SDGsの目標の一つに「つくる責任つかう責任」があるなど、*循環型社会の実現に向けては、製造や流通を担うメーカーや商店などの役割も重要です。身近な商店などと、町民と一緒に考えることができる“場”を創ることを提言します

10 ごみ問題の解決を他の課題の解決につなげることに挑む。

この会議で学んだ先進事例の「MEGURU STATION」には、ごみに取り組む過程で地域のつながりを深め、それが介護予防や買い物支援など、他の課題解決につながる可能性があります。引き続き、調査・研究し、琴浦方式として実現するための“場”を創ることを提言します。

11 継続・行動・進化で琴浦から世界へ！

私たちは、この会議のような“場”についても議論しました。一致したのは、これからもこのような機会があれば参加したいということです。このような“場”を継続して持つことを強く提言します。それがきっかけとなり、多くの町民が気づき、行動につなげ、進化することで、琴浦から日本、そして世界に向けて発信するというような矜持を持つことを提言します。

*循環型社会

天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会のこと。なるべくごみを出さない、ごみをできるだけ資源として使う、どうしても使えないごみはきちんと処分することで実現される。

09 循環型社会の実現に挑む。

具体的な取り組みの実現に向けて、それぞれが行うこと。

まずはここから！

私たち町民

- 廃棄のことまで考えられている製品を買うようにする。
- 循環型社会の大切さを幅広い世代に浸透させる。(行政と共に)

行政

- 町民と町内の商店などの事業者がお互いのことを知り、一緒に過剰包装などを減らすための取り組みを話し合えることができる、意識共有の場を設ける。(再掲)

引き続き取り組むアイデア！

その他

- 国に働きかけていく。琴浦から発信してはどうか。
- ごみが少ない販売に奨励や報奨を与える。
- お店の意識を変える。
- 軟質プラスチック容器を商品に使用しない。

- 製品を製造する際には最終処分まで責任を持つ。
- 短期の採算だけを考えず、使用可能期間を長くする。
- 良いものを開発したメーカーへの国からの補助。
- 部品製造期限を延ばすよう、メーカーに働きかける。
- 琴浦だけではなく広域的な取り組みが必要。

10 ごみ問題の解決を他の課題の解決につなげることに挑む。具体的な取り組みの実現に向けて、それぞれが行うこと。

まずはここから！

私たち町民

- 継続的に関心を持つ。
- 調査、研究の場に積極的に参加する。

行政

- 継続的な調査、研究の場を設ける。
- 他自治体の取り組みの情報を調べる。

引き続き取り組むアイデア！

私たち町民

- 「MEGURU STATION」はぜひ取り組んでみたい。また、地元の理解に向けて取り組みたい。
- MEGURU STATION 設置の効果や成果、公民館活動の一環としてできるのか、設置場所をどうするかなどを考える。

その他

- まずはできるところから試験的に実施してはどうか。
- 公共施設の再利用、小学校などの跡地利用はどうか。
- 朝市や高齢者の集いの場との連携はどうか。
- 地域ごとの特性を生かした実験的実施はどうか。
- 空き家や古民家の活用と連携してはどうか。
- スマートコミュニティバイオガス装置の設置を検討し、装置に関する情報を発信する。
- ごみ出しをきっかけに町民のつながりを強め、介護予防などにつなげるような取り組みはぜひ進めたい。
- 常設の拠点として考えられないか。情報交換の場、朝から夕方までのふれあいの場になる。
- 高齢者の集いの場、安否確認と連携できないか。
- 小学生の遊び場として考えられないか。
- 地区公民館と連携してはどうか。

地域

- 公民館単位での活動として取り組みたい。
- 地域の問題解決には、地域の連携強化が重要。
- 各地区にコンポストなどを設置する場合、その管理などについて、地元の理解が必要。
- 琴浦町は部落単位での活動が多い。コミュニティ強化で地域の課題解決につなげるのは良いことだと思う。
- 高齢化などに伴いごみ搬出やリサイクルなどに困難を生ずる町民に対する支援体制を考える。

11 継続・行動・進化で琴浦から世界へ！

具体的な取り組みの実現に向けて、それぞれが行うこと。

私たち町民

- 次は実行。引き続き関わりたい。
- このような機会をもっと多くの人に経験してほしい。
- 会議がきっかけで琴浦町に住んでいることを実感した。
- 意識が一段上がった感じがする。続けていくことが大切だと思う。
- これからも行動していきたい。

- 提言後の進捗状況も見てみたい。
- このような機会があればまた参加したい。
- 継続してこのような会議があったらよいと思う。

行政

- 引き続き、このような場を持つ。
- 町民と一緒に行動する体制を継続する。

■ 私たちから、皆さんに伝えたいメッセージ

ゴミの問題は
“あなたもわたしも含めた
みんなの問題です。
めんどうですがやってみると
意外と気持ち良いですよ。

私達1人1人のために。
子供達の未来のために。
今ある埋立地を
1日でも長く使えるように。
できることから
はじめよう!!

できることから
少しずつ

家庭ごみの問題は
生ゴミの水切り
から

- ・資源かゴミか
分別する。
- ・家庭から出る生ゴミ
の70%は水分だと
知ってほしい。
- ・自分のいらない物は
人のいるものかを。

ごみ問題
まずは生ゴミ
から

少しずつ積み重ねて
いけば大きな結果に
繋がっていくのがゴミ問題は、
小さなことでも、
みんなで少しずつ。

ごみもんだい、
「じぶんさえ
よければいい！」
くてもダメ!

ゴミの減量を行うことは、
〇〇を実現することに
繋がっていきます。一人ひとりが
行動を私に取組みの輪を
広げていきましょう。〇〇は、みんな
考えようね!!

みんなで
ゴミを減らそう

使い捨てを
減らして、ゴミも
減らしましょう。

最終処分場は
思っているより
ずっと小さいです

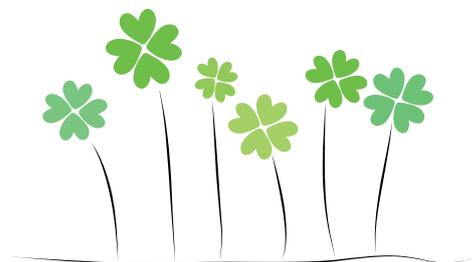
より良い琴浦町
に向けて、
まずはゴミ問題!

みんなで考える 家庭ごみ減量会議 提言書

家庭ごみのことで集まりました。
いろいろ考えました。
いろいろ話し合いました。
とても良いきっかけになりました。

このきっかけを大切に、
琴浦のいろいろなことを改善し、
琴浦が日本一、世界一になれるよう、
みんなで考え、行動したいですね。

一緒に琴浦の未来を創りましょう！



みんなで考える家庭ごみ減量会議参加者

石亀富美江
大河内真生
押本米子
門脇彩実
亀本良人
小庭和子
塩谷快斗
白水久夫
高塚忍
高松洋子
田鋤守
永代真澄
西口優作
秦野隆五
福田尚
福本愛弓
安好達憲
山根英恵
吉田賢治

※ 五十音順、敬称略

※ 名前の公表に、承諾された方のみ掲載。